

## 第68回 東葛しぜん観察会

### 早春の麗澤の森を楽しもう！

北山 繁（松戸市）

日 時：2011年3月6日（日）9時20分～12時15分 天気：晴

場 所：廣池学園“麗澤の森”（柏市）

参加者：一般（大人）35名、指導員20名

担当指導員：小島紀彦、坂部久美子、北山 繁

目立った花もそんなに沢山咲いているでもなく、冬芽の観察あるいは枯木の樹形をみるとくらいでそれほど人数が集まらないのではと心配していたが、予想に反し、50名定員のところ、はるかに定員超過で、申し込まないで現地参加した方は、断らなければならないという事態になってしまった。「麗澤の森」は、大学・高校・中学・幼稚園を経営する学校法人廣池学園の敷地内にあり、周囲は個人住宅、マンションに囲まれて、奇跡に近い形で森が生き残っているところである。これも学園創設者 広池千九郎氏が昭和10年1953年に学園を設置した時に、できるだけ多くの樹木を残して学舎を建設した結果である。千九郎氏は「仁草木 じんそうぼく に及ぶ」（慈しみの心を人間はもとより植物にも及ぼす）の精神を実践された方で、この精神が受け継がれ、立派な森がキャンバスに残されたと云われている。学園内には約1万5千本300種に近い樹木があり、中でも新緑の季節に白く鮮やかな花を咲かせるヒツバタゴ（ナンジャモンジャ）は広く知られ、花の時期には全国から花見に来園すること。また、中国の孔子廟にあるといわれるカイノキ（楷書の語源）がある。この木は孔子71代の子孫が来園を機に種子が寄贈されたものである。この木は長寿で700年も生きるといわれている。

#### 観察会で実施したこと

- ①メタセコイア・ケヤキ・ヒマラヤスギ：樹形の美しさを遠景で見る。
- ②イチョウ：人類出現以前から繁茂の古い木、精虫で受粉。
- ③クスノキ：樟腦の原料（葉をもんで匂いを嗅ぐ）
- ④ヒマラヤスギ：スギと名付くがマツ科、雄花・大型のマツカサを見せる。
- ⑤マンサクとシナマンサクの区別：シナマンサクは開花時に前年の枯れ葉が残っている。
- ⑥ヒノキとサワラの違い：葉裏の気孔がヒノキはY字型、サワラはX字型。
- ⑦ツバキとサザンカ（開花時の違い）：ツバキは2～3月に開花し、落花時に花弁がばらばらにならない。サザンカは10～12月に開花し、落花時に花弁がばらばら。
- ⑧イヌマキとコウヤマキ：イヌマキは葉の幅が広く、コウヤマキは狭い。
- ⑨ウスズミサクラ・メタセコイア・ブラジルマツ・カツラ・カワヅザクラなどの特徴を説明。
- ⑩ヒツバタゴの花、ソメイヨシノの桜並木、カイノキ・ハナノキの紅葉が美しいので、ぜひ楽しんでもらいたいと要望した。

#### 参加者の感想

冬芽をじっくり観察、落葉した木の樹形、照葉樹の葉が陽を受けて艶やかに照るさまなどを見て感動した。解説も非常に分りやすく、いろいろ勉強になった。花の咲く時期にもう一度来てみたい。



満開のカワヅザクラ